



Amazing! Family Life in Gunma
子育てファミリー向け
[ぐんま暮らし]ガイド

発行/群馬県地域創生部ぐんま暮らし・外国人活躍推進課
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1
TEL.027-226-2371 FAX.027-243-3110



群馬への移住を考える人のための
ライフスタイルWEBマガジン
[ぐんまな日々。]

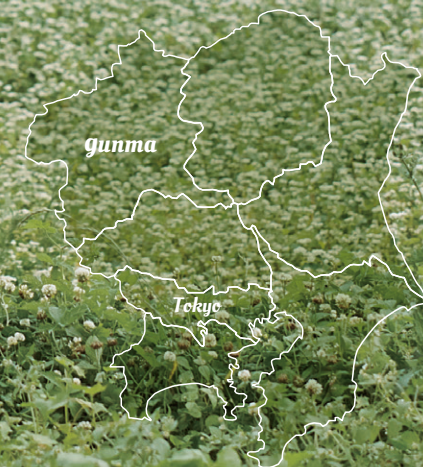


群馬県 結婚・子育て応援ポータルサイト
[ぐんまスマイルライフ]

Amazing!
Family Life in Gunma

子育てファミリー向け

[ぐんま暮らし]
ガイド



移住ファミリーに嬉しい群馬の魅力

移住先地域の決め手は人それぞれ。ここでは、ファミリーで移住を考えるにあたって
魅力的な群馬の特徴について、データで紹介。

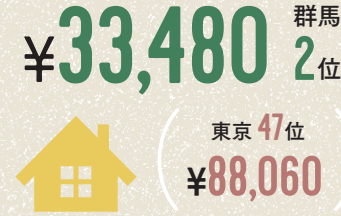
待機児童数



こども家庭庁・保育所等関連状況まとめ（R5）

令和5年データで県内の待機児童数はゼロ。年によって多少の変動はあるが、群馬では「保活」に悩まされることはなく、求職期間中の利用なども可能。共働き家庭にも安心だ。

住宅家賃の低さ



総務省・統計で見る都道府県のすがた（R6）

住宅家賃の低さも群馬の大きな特徴。家族での暮らしに十分な広さを望みつつ、家賃を抑えたい向きには重要な視点だ。

住宅の敷地面積



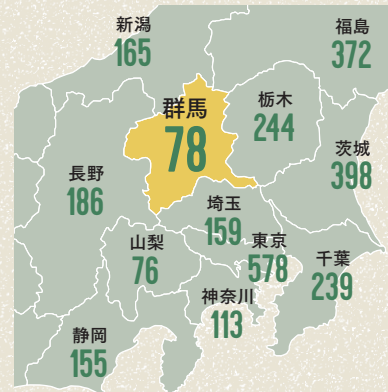
総務省・統計で見る都道府県のすがた（R6）

家族全員が快適に暮らすため、住居の広さを重視する移住希望者が多い。1住宅あたりの敷地面積を平均すると東京との差は歴然だ。

自然災害の少なさ

群馬県内の震度4以上の地震発生件数は、過去約100年間を振り返ると関東一少ない。首都直下地震が発生しても、県内ではほとんどの地域が震度5以下と想定される。また、年間の日照時間が全国12位と長く、晴れている日が多いため、風水害被害も比較的少ない。近年、災害リスクの低さから移住先に群馬を選ぶ人も増えている。

図は、気象庁「震度データベース」より、1923年1月1日～2024年10月31日に発生した震度4以上の地震回数を集計



物価水準



総務省・小売物価統計調査（R6）

群馬は首都圏に農畜産物を供給する、一大生産地。スーパーや直売所では、食べ盛りに嬉しい価格で新鮮な肉や野菜が手に入る。また、学習塾の受講費など、教育費が首都圏に比べて低いのも魅力だ。

心にググッと！

子育てファミリーに選ばれる県「ぐんま」の魅力。

関東の北西部、東京から100km圏内に位置する群馬県。「ふるさと回帰支援センター（認定NPO法人）※」のアンケート（窓口相談）では、2024年移住希望地ランキング第一位を獲得するなど、近年、移住先として大きな注目を浴びている。とりわけ

※現「公益社団法人 ふるさと回帰・移住交流推進機構」

子育てファミリーに支持される理由は、自然環境、災害リスクの低さ、首都圏からのアクセスの良さなどが挙げられる。加えて、山間部での大自然に囲まれた暮らしや、利便性の高い市街地での暮らしを、好みによって選べる点も群馬の大きな魅力だ。

「ぐんま」が暮らしやすい理由 気候topics

県内北部には標高2000mを越える山々が、そして、県内南部には関東平野に連なる平野部が広がり、群馬には山岳気候と平地気候が混在している。気温や降雪量の差は県内でのエリア毎に大きく異なり、県内南部の平野部では首都圏と同様、降雪は年に数回で、それほど積もることもない。県内北部は冬になればス

北部に住む？南部に暮らす？ 気候を知ってエリアを選ぼう

ノー・アクティビティが盛んだが、同じ山間部でも地域によって降雪量・雪かきの負担が異なる。近年全国的に気温が上昇しているが、北部の山間部の方が平野部よりも涼しい。また、日中の最高気温が高くなる平野部であっても、首都圏の都市部とは気温の上がり方や夜間の下がり方が異なる。

すなわち、ライフスタイルや嗜好によって、自分に合った気候の土地を選べるのが群馬の特徴なのだ。季節を変えながら繰り返し訪れて、自分に合う地域を探してみよう。

大自然に囲まれた高山村で暮らす山中さんファミリー



群馬県で暮らすために 移住information

各種情報発信に積極的な群馬県。多様なウェブサイト、小冊子、イベントなどを通じ、移住先を検討する方々に向け日々、最新かつ有益な情報を伝え続けている。納得のいくまで、対面での相談や暮らしに関連するデータ収集をできるのが群馬の強みだ。

ぐんま暮らし支援センター

東京・有楽町にある「ぐんま暮らし支援センター」では、移住相談員3名と就職アドバイザー1名の計4名で相談に応じている（予約推奨。オンラインでの相談も可能）。どんなエリアが自分に向いているかといった、おおまかな相談から、具体的な職探しやエリアごとのアドバイスまで、地域の移住コーディネーターや市町村窓口と連携し、相談者に丁寧に寄り添ってくれる。

☎ 080-8870-2756 or 070-4851-1647
東京都千代田区有楽町 2-10-1 東京交通会館 8階
ふるさと回帰支援センター・東京内

ぐんまな日々。

群馬への移住を検討する人に向けた、群馬県公式のポータルサイト。群馬県の移住イベント情報、各エリアの概要や移住者インタビュー、仕事や暮らしを支援する施策などが網羅され、群馬に興味のある人には重要な情報源。各種資料のダウンロードもできる。

https://gunmagurashi.pref.gunma.jp



ぐんまスマイルライフ

群馬県内での出会い、結婚、妊娠、出産、子育てまでを応援する情報に特化した、群馬県公式のポータルサイト。支援制度の紹介や利用方法、各種窓口情報や子どもの救急連絡先などもチェックでき、移住前から移住後まで大いに活用したい。

https://smilelife.pref.gunma.jp



その他のこども・子育て施策情報は、群馬県こどもまんなか推進プログラムをチェック！



子育てファミリー File 2

東京と群馬で夫婦それぞれ ショップを営む日々と暮らし

隆さんは台東区谷中で、千草さんは桐生市で自身のショップを運営。
ユニークなハイブリッドライフの実態は？

桐生市
Kiryu City

DATA

高橋さんファミリー
高橋隆さん(58歳)
千草さん(41歳)
長女(13歳)・次女(11歳)



1.ご夫婦それぞれが自身の店舗オーナー。 2&3&4.千草さんが展開する桐生の雑貨店「urarak」。 5.店舗の2階を居住スペースに。 6.自宅から徒歩3分の渡良瀬川付近。 7.隆さんがデザインし、営むシャツブランド「h.b」。

2014年に東京都内から群馬県桐生市へ移住した高橋さんファミリーが移住を決めた理由は明快だった。千草さんはこう語る。「長女が三歳、次女が生まれたばかりで、このまま都内で子育てをしていくことに違和感がありました。都会の真ん中の保育園だと、子どもたちはコンクリートに囲まれた狭い空間で長時間過ごすことになるでしょう。だから、子どもたちが思い切り伸び伸び過ごせる保育園のある場所で暮らしたいと考えるようになったんです」。千草さんの実家が前橋市にあったことから群馬県内をリサーチした結果、理想の保育園を桐生市で発見。幼児期から自然の中で遊び、「生きる力」を育むことを目標とした保育園の方針に魅了されたという。隆さんは東京の台東区で服と日用品を扱うショップを経営していたが、思い切って桐生市へ移住。隆さんは単身赴任の生活へ。5年ほど前には、隆さんに影響を受けた千草さんも自身のショップを桐生でオープンさせた。現在、隆さんは桐生から都内の自身の店へ通勤し、千草さんは自宅兼店舗で自身の店を運営。隆さんは今の暮らしについてこう話す。「子どもたちが泥んこになって遊ぶ姿を見たり、山登りや川遊びに夢中になっている様子を見ると、やっぱり移住して良かったなと感じます。新桐生駅から特急電車を利用すれ

ば快適に都内へ出られるので通勤にもストレスはないですね」。千草さんはこう付け加えた。「桐生は人も温かく、自然も豊かで野菜も美味しい。また、歴史を感じさせる街の雰囲気も気に入ってます。移住のキッカケは子育てでしたが、結果として私自身の店も開店することができ、現在の暮らしに喜びを感じています」。

Check!

移住前と移住後の変化 高橋さんファミリーの場合

移住前		移住後	
住所	東京都文京区	▶	群馬県桐生市
職業	自身の店舗を都内で経営 (隆さん/移住後も)	▶	新たに桐生で店舗経営(千草さん)
家賃	14万円/月	▶	1,600万円(土地+店舗兼住宅購入)

Money!

移住後、お金の使い方がこう変わった！

「実家に近くなったこともあり、父が育てた野菜をもらえて食費が少し軽くなりました。東京では車を持っていなかったのに、車の維持費は新たにかかるようになりました。子供たちも安心して遠出ができるようになったのでメリットは大きいです。移住後の休日は、家の周りや公園などでお金をかけずに楽しみつ、家族揃っての旅行ではお金を使うなど、メリハリができました」

子育てファミリー File 3

リモートで移住コンシェルジュと相談し、 すべての不安を解消！

子どもたちの健康を第一に考え、選んだのは大自然に囲まれた暮らし。
地縁のなかった土地でも充実の移住生活を実現できているという。

富岡市
Tomieka City

DATA

小松さんファミリー
小松隼さん(42歳)
三紀子さん(39歳)
長女(7歳)・次女(1歳)



1.娘さんも群馬での暮らしに大満足。 2&3.広々とした富岡市の住まい。 4&5&6.庭ではハーブやお花など三紀子さんが仕事で利用する植物を育てている。 7.隼さんもバイクライフを満喫。

2024年に東京の多摩エリアから群馬県富岡市へ移住した小松さんファミリー。現在、小学生と認定こども園の娘さん二人を育てる三紀子さんは移住の経緯についてこう話す。「この先の子育てを考え、自然に囲まれた環境、広々とした家に移りたいという願望が以前からありました。上の娘が小学校入学のタイミングでと思い、私の実家がある新潟と主人の実家がある東京の間で移住先を1年かけて探したんです。地理的要因からたまたま群馬への興味が高まり、地縁はありませんでしたが、富岡市の親切的な移住コンシェルジュの方と出会い、何度も相談させていただきながら移住を決めました。子どもの教育環境や生活面、周辺地域の情報など、あらゆる不安をリモートでコンシェルジュの方と相談できたのは大きかったです。夫は都内のIT企業勤務でリモート中心、私はアロマとハーブのアドバイザーを仕事にしているのでオンラインでも仕事ができ、移住後は快適に暮らせています」。富岡市の移住体験施設でお試し移住をしながら周辺のリサーチなども行い、この地への移住を決意した小松さんファミリー。移住後の変化について、三紀子さんはこう話す。「子どもたちは天気さえ良ければ外遊び。自然も豊富だし、車も少なくご近所の方も親切なので安心して遊ばせることができ、子どもたち二人とも

都内にいた頃より体力がついたかなと感じます。子どもの健康維持は移住の大きな目的だったので、富岡市の暮らしにはとても満足していますね」。富岡市は高崎や前橋へも車で40分圏内のため、ちょっとした買い物にも困らないと話す三紀子さん。自宅の敷地も広いことから、夫はバイクの趣味、自身はハーブや野菜の栽培を存分に楽しめるようになったと、充実の笑顔で話した。

Check!

移住前と移住後の変化 小松さんファミリーの場合

移住前		移住後	
住所	東京都武蔵村山市	▶	群馬県富岡市
職業	IT関連会社勤務(隼さん) アロマとハーブのアドバイザー(三紀子さん)	▶	夫婦共に変わらず
家賃	約85,000円/月	▶	約96,000円/月 (住宅購入)

Money!

移住後、お金の使い方がこう変わった！

「車中心の生活になったので、ガソリン代がかかるようになった一方、子どもたちの毎月の教育にかかる費用は減りました。住居は賃貸から持ち家になったため、月の負担が増えましたが住居を取得できてとても満足しています」

子育てファミリー File 4

夫婦でリモートワーク！ 家族でアウトドア三昧！

みなかみはレジャーの宝庫！休日は、近隣で自然やアクティビティを家族全員で満喫しているという毛利さんファミリー。

みなかみ町
Minakami Town

DATA

毛利さんファミリー
毛利英人さん(39歳)
明日香さん(37歳)
長女(7歳)・次女(5歳)
長男(3歳)



1&2&4. 広々としたダイニングキッチン。太陽光が四方から入り込む明るい室内も印象的。 3. 近所にある広大な「矢瀬親水公園」は毛利さんファミリーお気に入りのスポット。 5&6. 賑やかな3人兄弟も大騒ぎできる住まい。 7. 窓からは美しい山陵も臨める。

「親が日々楽しんでる姿を見せることが、子どもと接する中で大切だと思っていて。だからこのみなかみ町に移住してからはこれまであまり体験してこなかったアウトドアにも挑戦するようにしています。妻はもともとスノーボードが好きだったので自分もスキー場へよく行くようになりましたし。子どもたちもみなかみでの生活を満喫してくれていると思います」。こう話すのは英人さん。東京の目黒区に住んでいた頃とは全く異なり、近所の農園でフルーツ狩りや温泉巡り、ハイキングにカヌーにラフティングにスキー、田植え体験まで、近隣で楽しめるレジャーを家族で満喫するようになったという。「都内の住まいは、二人目の子どもが生まれてから手狭に感じるようになりました。自分はリモートが可能な会社員、妻も都内の会社に所属しながらリモート中心。だから都内へ1時間強で通える移住先を探そうということになって。現在の家は上毛高原駅まで近く、新幹線を利用すれば十分、都心へ通えます。夫婦二人とも勤め先を変えずにこれほど恵まれた土地に移住できて本当によかった」。移住相談会で群馬のことを知ったという毛利さんご夫婦。移住コーディネーターに細かく希望を伝えたところ、このみなかみ町を紹介された。さらに先輩移住者を紹介してもらい、リアルなみなかみでの生活を見聞かし

に何度も現地へ出かけたという毛利さんファミリー。1年ほどかけて、理想の広さの一軒家を購入することもできた。明日香さんはこう話す。「私自身、山の新緑がこれほどきれいだとは思いませんでしたし、群馬は食べものも美味しくて安い。3人の子どもたちも自然と触れ合う毎日で成長にも良い影響があるんだと思います。保育園やスーパーも近くて不便はまったく感じませんよ」。

Check! 移住前と移住後の変化 毛利さんファミリーの場合

	移住前	移住後
住所	東京都目黒区	群馬県みなかみ町
職業	夫婦共に会社員	夫婦共に勤務先変わらず
家賃	約150,000円/月	700万円弱(土地+住宅購入/諸費用込み) +2000万円(リフォーム)

Money! 移住後、お金の使い方がこう変わった！

「コンビニを含む外食の類は減ったと感じます。家は広くなりましたが、光熱費はあまり大きく変わりません。太陽光発電が効いていると思います。都内在住の頃に比べ、遠出することは減りましたが、近場でのレジャーが増えました。トータルで見ると、移住して大きく生活費が下がった、上がったという感覚はありません」

子育てファミリー File 5

1000m級の山々に囲まれながら、 自由にオリジナルな暮らし方を模索！

自分たちらしい暮らしを実現しようと、大都会での暮らしから大自然に囲まれた暮らしへ移行。山中さんファミリーが抱くさらなる夢とは？

高山村
Takayama Village

DATA

山中さんファミリー
山中武さん(40歳)
麻葉さん(40歳)
長女(3歳)



1&2&3. 夫婦ともに自宅での仕事を中心。家族で過ごす時間を何よりも大切にしているという。 4. 二人は高山村で育てているマコモダケをベベロンチーノオイルソースに仕立て、ブランド「Down to Earth」から販売している。 5&6&7. 家の周りでの何気ない散歩が至福の時間。

「夫は都会での夜遊びが大好き。だけど私はアパレルのデザインで起業して数年経ち、大自然の中でやりたいことがたくさんありました。だから夫がコロナでリモートワーク中心になった頃、説得して移住先を探し始めたんです」。こう話すのは、現在、アーミッシュの文化研究家として活動し、アーミッシュの伝統服(衣服)をお手本にしたアパレルブランド「Down to Earth」を運営する麻葉さん。アーミッシュとは主にアメリカやカナダでコミュニティを形成する、ドイツ系移民を中心としたグループ。独自の思想で生活を営み、自然と調和した暮らしを続けるアーミッシュの生き方に麻葉さんは魅せられたという。「文明を否定せず、だけどテクノロジーや流行にコントロールされず、自らのアイデアと技術で暮らしを営むアーミッシュの暮らしに以前から興味があって。彼らは自宅でできる仕事を中心に、家で子育てを楽しみながら、家庭に中心を置いた暮らしを基本としています。私もそんな暮らしがしたかったんです」。そして、群馬の移住・定住コーディネーターを頼って自身の夢を語り、紹介されたのがこの高山村だった。南北に1000m級の山々が連なる壮大な風景や、自然とともにゆったり暮らす人々の営みが、山中さん夫婦の心に響いたという。「美しい里山の雰囲気理想でしたし、いずれは

馬を飼ってホースセラピーもやってみたいと考えているのでまさに高山村は理想的でした」。続けて武さんはこう話す。「自分は移住・定住コーディネーターの職に就き、貸別荘のビジネスなども並行して進め、自分たちのペースで日々、過ごせています。夫婦二人とも家にいる時間が多いので、家族3人で向き合う時間も増え、子どもも大自然の中での生活を楽しんでいますね」。

Check! 移住前と移住後の変化 山中さんファミリーの場合

	移住前	移住後
住所	東京都杉並区	群馬県高山村
職業	会社員(武さん) デザイナー兼ブランド運営(麻葉さん)	移住・定住コーディネーター(武さん) デザイナー兼ブランド運営(麻葉さん) 貸別荘経営(武さん&麻葉さん)
家賃	約160,000円/月	41,000円/月

Money! 移住後、お金の使い方がこう変わった！

「外食がなくなり、野菜は無料でいただくことが多いため、食費や交際費が大幅に減りました。また、自然環境が豊かで遊びは近所で事足りるため、娯楽費も大幅に減りました。ただ、寒冷地のため、暖房費は増加(冬季は月あたり電気代2万円+灯油代5千円)しました」

ぐんまな日々 ― 群馬の一年 ビジュアル歳時記

春

Spring



梅

群馬は生梅の生産量が全国2位。三大梅林(安中市の秋間、高崎市の榛名・箕郷)は梅まつりで賑わい、収穫などの体験も。梅干しはもちろん、ジュースやジャムなど家族で味わって。

花見

例年の桜の見頃はおよそ3月下旬から4月上旬。新緑に桜色に加わり周囲が華やか。



山菜

ふきのとう、タラの芽、わらびなど。てんぷらやお浸しにして春の味を楽しめる。



いちご

春はいちごの季節! 群馬にはたくさんのいちご農園があり、新鮮ないちごがスーパーや直売店に並び、県を代表する品種「やよいひめ」ほか様々な品種を食べ比べるのも楽しい。



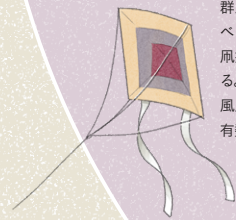
空っ風

「空っ風」は上毛かるたにも詠まれる冬の群馬の風物詩。北西の季節風が冷たい風として平野部に吹き下ろす。



風揚げ

群馬には広く自由に遊べる公園がたくさん! 風揚げも気軽に楽しめる。前橋の「上州空っ風風揚げ大会」は県内有数のイベント。



ワカサギ釣り

ワカサギ釣りは冬の風物詩。1月中旬から3月頃まで、赤城大沼や榛名湖などで氷上の釣りを楽しめる。



雪遊び

山間部では200cmを超える積雪もある。雪だるま作りやスキー、スノボ、そりなども。美しい雪景色を家族で楽しみたい。



タケノコ掘り

タケノコ掘りも春の楽しみ。4月中旬から5月初旬、タケノコ掘り体験に挑戦してみよう!



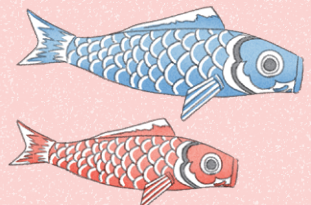
田植え

5月連休明け頃から田植えの最盛期に。家族で田植え体験などができるスポットもたくさん。



鯉のぼり

市内各所で合わせて4000匹以上が泳ぐ館林市、神流川の河川敷で800匹以上が空を泳ぐ神流町など、県内各地で大規模な鯉のぼりイベントを開催。



通年の

焼きまんじゅう

群馬を代表する郷土食が「焼きまんじゅう」。串に刺したふわふわの饅頭に、甘い味噌だれをたっぷりと塗って焼かれる。おまつりの屋台の定番で、子どもたちにも大人気。



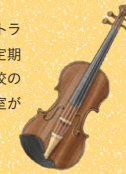
マラソン

11月の「ぐんまマラソン」をはじめ、大小のマラソン大会が県内各地で楽しめる。5月には日本最古のマラソンを復活させた仮装が見所の「安政遠足」も。観るもよし、参加するもよし!



群馬交響楽団

1945年に創設された地方オーケストラの草分け「群馬交響楽団(群響)」。定期演奏会のほか、県内各地の小・中学校の児童・生徒を対象とする移動音楽教室が特徴。プロの演奏を身近で楽しめる。



キャンプ

充実の施設が揃うオートキャンプ場、グランピング場から、素朴なキャンプ場まで。県内はまさに通年、キャンプ天国!



SL

現役のSLが走る有数の地域として知られる群馬。歴史ある機関車や昔懐かしい雰囲気は子どもたちにも大人気。



冬桜

11月中旬から12月中旬にかけて、藤岡市の桜山公園では約7,000本の冬桜が見頃を迎え、紅葉との競演も。親子で絶景を楽しんで!



白鳥

白鳥の飛来地として知られる群馬。11月下旬から3月頃まで、多々良沼や鏡川などに白鳥が訪れる。



下仁田ネギ

下仁田町特産の太く短いネギで、12月に最盛期を迎える。加熱すると柔らかく、濃厚な風味と甘みが子どもにも大人気。



群馬には季節毎の風物詩や、通年のお楽しみが盛りたくさん。大人も子どもも楽しめる群馬の一年をビジュアルでみてみよう。

Illustration/Miltata

夏

Summer



夏祭り

伝統の前橋七夕まつり、個性豊かな山車や神輿が連なる高崎まつり、沼田まつりなど、親子で楽しめる地域のお祭りを各地で開催。



川遊び

利根川の源流を抱える群馬は水資源に恵まれ、利根川水系の清流が県内各地に広がる。川遊びのできる浅瀬や公園も多く、子どもたちの冒険心をくすぐる。



雷

夏の群馬は雷のシーズン。赤城山、榛名山などが連なる地形により雷が頻発する。



嬭恋高原キャベツ

嬭恋高原キャベツは、夏〜秋の出荷量が60年以上にわたって全国1位。甘みずみずしく、新鮮なキャベツは子どもたちにも大人気。



蛭

清流や湧水地には蛭がいっぱい。初夏の夜には蛭観察が、群馬の夏の風物詩。



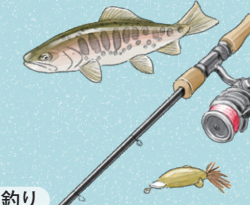
林間学校

大自然に囲まれた群馬ならではの林間学校は、子どもたちにとって初夏の一大イベント。



釣り

溪流釣りではイwanaやヤマメ、釣り堀や湖では手軽にファミリーで釣りを楽しめる。群馬は釣りのパラダイスだ。



昆虫採集

親子で早起きをして、身近な公園や森へ昆虫探しに。クワガタやカブトムシにも出会えるかも!



お愉しみ

こんにやく

群馬は日本一のこんにやく生産県。煮物やみそ田楽など郷土料理には欠かせない。



八木節

運動会など学校行事にも組み込まれ、子どもたちに親しまれている。夏の桐生八木節まつりは誰でも参加OK! 踊りの輪に加わり、伝統と熱気を体感して!



公園

広大な敷地で思い切り遊べる遊具や施設が充実している「ぐんまこどもの国」、深い緑に囲まれた自然の中で楽しめる公園「群馬の森」など、家族で楽しめる大小の公園が県内には多数。



登山や自然散策

上毛三山や谷川岳など各エリアの山々は県のシンボル。通年、本格的な登山はもちろん、親子で気軽にハイキングや自然散策を楽しめる。



りんご

豊富な日照量と昼夜の寒暖差によって県内には「ぐんま名月」などおいしいりんごが豊富。完熟のもぎたてを家族で!



芋掘り

県内各地の農園では紅あずまやシルクスweet、紫芋など、多彩な品種が! 10月中旬〜11月中旬は芋掘りで楽しもう。



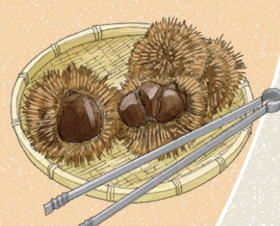
紅葉

県内各所で10月中旬から11月下旬にかけて長期間、紅葉を楽しめる。わたらせ渓谷、吾妻峡など川面に映る鮮やかな紅葉の風景も美しい。



運動会

群馬では「赤城団」「榛名団」「妙義団」と上毛三山をはじめとする山の名前でチーム分けする学校が多い。秋の運動会は子どもたちの晴れ舞台!



栗拾い

無農薬や減農薬で育てた大粒の甘い栗が県内にはたくさん。秋は家族連れで楽しめる秋の栗拾いに挑戦!



果物狩り

秋のお楽しみはなんといっても果物狩り。夏〜9月はブルーベリー、9〜12月はりんご、8〜10月はぶどうや梨がおいしい!



県民の日

10月28日は群馬県民の日。県内の公立学校は休みになり、各地で記念イベント、施設の無料開放などを実施する。



冬

Winter

秋

Autumn